

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 富士市立岩松北小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒416-0901
静岡県富士市岩本123番地の1

E-mail : pc-iwamatukita@div.city.fuji.shizuoka.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 343名 女子 337名 合計 680名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校は、北に岩本山、西に富士川、南に駿河湾、東に愛鷹山があり、自然にあふれた場所に位置しています。また、校庭からは、世界遺産にもなった富士山が裾野から見渡すことができます。その特色を生かして、総合的な学習の時間（通称けやき学習）を中心にESDを進めてきました。2013年にユネスコスクールに承認されてからは、さらに地域に根付いた活動を進めてきました。世界に目を向けつつも、まずは自分たちが住んでいる岩松北地区を知ることが、視野を広げる第一歩だと考えています。『Think globally Act locally』を意識して、地元の特産物や文化遺産を教材にした取組を紹介します。

《本校がESDを通して付けたい力》

- ・問題や課題に気づき、何とかしようと考えて、学んで、行動を起こす力
- ・人として信頼され、他と力を合わせていく力
- ・心と体を健康にし、豊かな感性を維持する力

《各学年のテーマと活動》

本校は、昨年度ユネスコスクールに登録されたことをふまえ、主に生活科と総合的な学習の時間（けやき学習）をとおして、『ESD（持続可能な開発のための教育）』を推進しました。また、子どもたちの思いや願いを生かすために、学年ごとの大テーマをもとに、目標を学級ごとに教師と子どもとで設定し、ESDカレンダーを作成しながら活動を進めていきました。その結果、子どもたちは、課題解決に向けて主体的に追究することができました。活動は平成26年度の実践です。

1年生…身近な自然 身近な地域

季節に合わせて行事をしました。そら豆のさや剥き体験やお月見集会、豆まきなどをすることで、自然や行事に興味を持って生活しました。栄養士から話を聞いて、友達と協力して剥きました。自分と身近な自然とのかかわりを深めることができ、他と力を合わせていく力が付きました。

2年生…地域の様子と生活

地域探検をしました。学区内のパン屋や特別養護老人ホームに出掛けたり、電車に乗って富士駅まで出向き、公共の施設でのマナーを学んだりしました。働いている人の大変さに気付きました。地域の施設や人々の生活の様子を知り、地域への愛着を深めるきっかけになりました。

3年生…地域の人々の暮らし

地元特産のお茶の学習をしました。地元のお茶農家の方をゲストティーチャーに招き、お茶摘み体験から淹れ方まで学習しました。どうしたらもっと多くの人に飲んでもらえるのかとお茶のパッケージを実際に考えたり、和菓子屋さんをゲストティーチャーに招いてお茶に合う和菓子を創作したりしました。茶畑の美しさ、良さ、おいしさをPRしたCMはホームページに載っています。地域の様子を調べたり、人簿との仕事や暮らしに触れたりする中で、身近な社会と自分とのかかわりについて考えていく力が付きました。

4年生…自然と環境

エコについて学びました。夏にはグリーンカーテンを作りました。理科の学習で育てたヘチマを利用したヘチマだわしと、廃油から作った廃油せっけんを手にも学校中をきれいにしました。さらには、富士市の特産品である製紙を学習したことから、紙の再利用にも注目しました。博物館の方をゲストティーチャーに招き、紙漉体験

をしました。身近な環境問題について考え、自分たちに何ができるのかと課題を持ち、行動を起こすことができました。

5年生…様々な人との交流

世界に目を向けて、自分たちにできることを考えました。満身に学校に通うことができない世界の子ども達の現状を調べました。募金をするために、野菜や花を育て、地域の方に売ったお金を、日本ユネスコ協会に送りました。日本ユネスコ協会のフェイスブックに掲載していただきました。自分たちにできることから大きな集団に声を掛け、みんなの力で世界を変えていこうと行動を起こすことができました。

6年生…自己の生き方

地域の特産物である梅やみかん、ブルーベリーに注目しました。摘果したときに出る廃棄になった果物を頂き、自分たちで商品にして売りました。洋菓子店の方をゲストティーチャーに招き、自分たちなりのお菓子を作りました。改めて自分の住む地域の良さを知り、地域を大切にしようという思いの高まりの中で、自分の未来を考えました。

《インドネシアフォーラムへの参加》

○目的 大学教育における ESD の普及と深化、および就学前教育から高等教育までを含む多様な段階の学校教育と地域社会における ESD 実践の情報共有。

○参加者 ガジャマダ大学、インドネシア教育大学、静岡大学（岩松北小学校）の三者

1 インドネシアユネスコスクール訪問

この日は、訪問を受け入れる特別プログラムが組まれていました。インドネシアの学校は、自然が豊かで健康な子どもの育成に力を入れていて、保健室では、保健所で研修を受けた子どもが、当番制で簡単な薬の調合と提供などの仕事をしていました。堆肥づくりの見学や、子どもと一緒に民族楽器の演奏体験もさせていただきました。



2 カソガン村訪問

数年前、地震で壊滅的な被害を受けた村を、ガジャマダ大学が中心となって復興。持続発展型の村を目指しています。自給自足のしくみや、観光部門での取り組みを学生が支援しました。農耕の際の歌を観光用に披露する取り組みが紹介されました。



3 ESD 実践発表

インドネシアの ESD は環境に対する取り組みについての報告が多くありました。ゴミの捨て方やトイレの衛生的な使用について、教育に力を入れています。岩松北小の ESD については、けやき学習の紹介と、造形教育を通じた実践を報告しました。アートは新しい価値、未来をつくるという考え方と、地域の素材を活用することで、故郷への思いを高めていくことを伝え、会場からは、創造的な教育であるという価値付けをいただきました。



